

令和8年度豊頃町・大樹町 姉妹都市子ども親善使節団派遣事業報告

問合せ先

教育課社会教育係 579・5801

昭和五十九年度から大樹町と合同で始まった豊頃町・大樹町姉妹都市子ども親善使節団派遣事業は、これまで、延べ三九一名の児童を相馬市へ派遣し、交流を深めてきました。二十一回目を数える今年度は、団員二十名（うち豊頃町十名）、引率者六名（うち豊頃町三名）の計二十六名が七月二十八日（火）から七月三十一日（金）の三泊四日で、姉妹都市である相馬市を訪問しました。

7月28日（1日目）

待ちに待った研修一日目。子ども達は元気にえる夢館に集合し、豊頃町子ども親善使節団結団式を行いました。岡本さんによる団員代表挨拶後、える夢館を出発。幸福駅で大樹町子ども親善使節団と合流し、合同結団式を行いました。



大樹町の子どもたちと合同結団式

その後、新千歳空港から空路で仙台空港へ。空港から相馬市への移動中、バスの車窓から見える、本町では見ることの出来ない瓦屋根や水田などの景色に子ども達は興味津々の様子でした。相馬市到着

後、歓迎式に出席しました。相馬市長、市議会議長をはじめ、関係者の皆様が、使節団一行を温かく迎えてくれました。子ども達は、緊張した面持ちでしたが、一人一人しっかりと大きな声で自己紹介できました。歓迎式後、相馬市歴史収蔵館・郷土蔵を見学し、相馬の歴史を学び、初日を終えました。



郷土蔵見学

研修二日目は、はじめに相馬市の児童と対面式を行いました。グループごとに、一人一人自己紹介や、自分の町の紹介をし、打ち解けた様子が見られました。豊頃町を代表して、川口涼介さん、原田

7月29日（2日目）

清良さんが記念品を受け取りました。カニ釣り体験では、岩の隙間に餌のついた針金を垂らし、じつと食いつくの待ちました。カニが釣れると、嬉しそうに友達と見せ合い、時間が経つのがあっという間に感じるほどのめり込んでいました。昼食時には、松川浦ガイドの会による浜焼き体験を行いました。イカを串に刺すところから体験し、秘伝のタレをかけたイカをおいしそうにほおばっていました。とうきびやホタテ、釣ったカニを唐揚げにしていただき、子どもたちは、とても満足している様子でした。



浜焼き体験

その後のサップ・シーカヤック



サップ体験

体験では、最初に軽いレクリエーションを行い、子どもたちの仲をより深めました。ライフセイバーの皆さんがサポートしてくれていたので、子どもたちは安心してボードの上に立ち、相撲をとったり、ボードの上から海へ飛び込んだり、思う存分海での活動を楽しむことができました。

一日という短い時間ではありましたが、相馬市児童との交流を通じて夏の相馬市を満喫した子ども達でした。

7月30日（3日目）

研修三日目。仲良くなった相馬市の子どもたちが見送りにきてくれ、別れを惜しみながら、相馬市を出発しました。

宮城県松島町では、国の重要文化財に指定されている五大堂、瑞巖寺を見学し、日本三景と呼ばれている島々の景色を汽船から眺めました。船内でゆったりと景色を眺めながら過ごす子や、気持ちよさそうに波風に当たって過ごす子など、それぞれ



汽船の上から「波風が気持ちいいね」

自由に遊覧を満喫しました。その後、仙台市に移動し、仙台商館水族館

を見学しました。色とりどりの魚やペンギンなどの動物のほか、大迫力のイルカショーを最前列で観覧し、水しぶきがかかるたびに悲鳴を上げながら楽しんでいました。

7月31日（4日目）

研修四日目は、仙台城跡を見学しました。本丸跡から仙台市内を見渡し、有名な伊達政宗騎馬像を



伊達政宗騎馬像の前で記念写真

目の当たりにして、子どもたちは興味を示していました。その後の自由時間で、おみくじを引いたり、すずめ饅頭を購入したり、買い物を楽しみ仙台商館を出発。新千歳空港に到着し、迎えのバスに乗り込むとほっと安堵の表情を見せていました。

幸福駅での合同解団式では、四日間一緒に行動した大樹町の仲間



える夢館で帰町報告

結びに本事業が、町民の皆様のご理解により、長きに渡り続けられていることに改めて感謝し、今後も相馬市との友好が末永く続くことを祈念し、令和8年度姉妹都市相馬市への豊頃町・大樹町姉妹都市子ども親善使節団派遣事業報告とさせていただきます。

豊頃町子ども親善使節団団員

【団員】

岡本 到（豊頃小6年）
川口 涼介（豊頃小6年）
岸下 怜央菜（豊頃小6年）
酒井 菜帆（豊頃小6年）
中野 瑛太（豊頃小6年）
佐々木 蘭（大津小6年）
軍司 実里（豊頃小5年）
古田 隼士（豊頃小5年）
米田 陽翔（豊頃小5年）
原田 清良（豊頃小5年）

【引率者】

田頭 保（団長教育委員会教育委員）
大山 千歌子（豊頃小学校教諭）
藤原 航（教育委員会）